≪関宿城博物館など県立博物館の所蔵資料≫

# 野田市ゆかりの資料を含む656点が国登録有形民俗文化財に

## ～船大工用具や廻漕問屋開業広告など～

千葉県（中央博物館・大利根分館・関宿城博物館）の所蔵資料656点が、令和７年１月24日、文化審議会から「利根川中下流域の川船及び関連用具」として国登録有形民俗文化財に登録するよう答申があった。今後、官報告示されると、県内の国登録有形民俗文化財は初めての登録となる。資料のうち110点が県立関宿城博物館で所蔵する高瀬船（たかせぶね）の帆（ほ）・櫓（ろ）等の操船用具や、渡り板・淦汲み（あかくみ）等の船上用具のほか、船大工用具など、同館周辺の利根川中流域で使用された川船関係資料となっている。近代に鉄道・道路網が整備されるまで、人・物資の輸送に重要な役割を果たしてきた利根川舟運（しゅううん）の様相を伝える貴重な資料で、同館では、エントランスホールとホームページで今回の登録を紹介するとともに、令和７年秋に登録記念のパネルミニ展示を行う予定としている。

【資料の名称】利根川中下流域の川船及び関連用具
【員　　数】656点（うち、県立関宿城博物館の所蔵資料は110点）
【登録の種別】交通・運輸・通信に用いられるもの
【登 録 基 準】有形の民俗文化財の収集であって、その目的、内容等が歴史的変遷、時代的特色、地域的特色、技術的特色、生活様式の特色又は職能の様相を示すもの

【資料の特徴】

千葉県の北縁を流れる利根川、その流域は江戸時代以来、銚子から江戸、また北関東一円をつなぐ舟運によって繁栄した。野田市では、関宿地域がその要衝として栄え、野田地域が醤油の産地としてその恩恵を受けてきた。舟運の発達が流域の醸造業など産業の発展を促し、それにより大小の河岸が形成されるとともに、さまざまな物資や人を運ぶ多様な形や大きさの川船が造られた。

なかでも利根川高瀬船は、江戸時代から昭和30年代まで長距離輸送で活躍した。また、利根川の支流や湖沼の周囲では、サッパ舟（さっぱぶね）などと呼ばれる小型船が人々の日常生活に欠かせない交通手段だった。

本資料は、県立中央博物館・同大利根分館・県立関宿城博物館で収集、調査・研究を続けてきたもので、高度経済成長期以前の利根川中下流域の水運を今に伝える貴重な資料として認められた。

問合せ＝千葉県立関宿城博物館・電話04-7196-1400

野　田　市